

第2回宮古市中心市街地拠点施設市民検討委員会 議事録

1. 日時 平成26年8月27日（水） 午前10時30分～11時40分
2. 場所 宮古市役所分庁舎 3階大会議室
3. 出席委員 19名
北原啓司、花坂康太郎、澤田克司、赤沼正清、太長根理恵子、小野寺文雄
盛合敏子、林本卓男、伊藤和榮、山下修治、佐香英一、高橋雅之、鈴木光子
上野けい子、佐々木慶子、岩田博子、金野侑、平藤一氏幸、望月正彦
4. 事務局出席者 4名
総務企画部長 佐藤廣昭、企画課長 山崎政典
同課市街地施設推進室長 岩間健、同室主任 竹田真人
5. 傍聴者 2名
6. 議題 宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本構想（案）について
7. 議事録（要旨）

会議開催までに寄せられた基本構想(案)に対する意見及び反映状況について、資料に基づき、事務局より説明を行う。会議では、各委員から質疑（意見等）を受ける。

主な質疑事項

質疑

・コンパクトシティと称して、まちが一極集中して西側に移動している感じがする。市民の理解が浸透しきっていない。周辺の商店街の理解を深めることが大事である。

中央通商店街は、市役所と共存共栄している。市役所移転により客足が鈍る。震災被害から立ち直りつつある中、さらに追い打ちをかけるような事態を懸念している。拠点施設の議論ばかりではなく、市庁舎の跡地の利用を同時あるいは先行して議論してほしい。

また、アンケートの跡地利用の選択肢で、「企業や個人への売却」とあり、例を挙げるとイオングループへの売却ということも考えられるが、個人的には反対である。

回答

・アンケートは、昨日までの集計分で1090枚回収している。これまで3000人の無作為抽出でアンケート調査を行った実績があるが、その際は約4割で1200人の回答を得ている。今回はそれに近い数を期待でき、市民の皆様も事業への関心を持っていると感じている。次回結果をお示ししたい。

跡地利用に関しては、重要な課題と認識している。企業への売却は現在想定しておらず、公共的な利用を前提に議論したい。また、若い人たちにワークショップ形式で跡地利用のテーマを中心に議論してもらうことも考えている。本委員会でも、跡地利用について議論してもらいたい。

基本計画策定業務もプロポーザルを実施し、業者を決定している。次回から参加してもらう。

・コンパクトシティの概念をはき違えて理解しているケースが非常に多い。本来、一極集中ではなく、それぞれの拠点をメリハリをつけて整備し、それをネットワーク化することを示している。北上市の整備事例もある。

跡地利用については、宮古駅南側と現庁舎用地の新拠点を同時並行で検討したい。機能を分ける必要はあるが、セットで議論したい。

質疑

・移転の経緯は、耐震補強の経費が多額であり、補強後も耐用年数が延長されない。また、拠点整備の財源も期限があることは理解できた。ただし、他の自治体でも見ると、仙台市・横浜市・岩沼市等で耐震補強をして、現庁舎を活用している例がある。それらの事例を今回どのように分析し、比較検討しているのか。

回答

・それらの事例は市では詳細を調べていないのが実態。ただし、耐震診断の結果がⅠＳ値という指標でしっかり示されており、耐震性は確保できていない。東日本大震災では被害の大部分は津波によるもので、地震被害はほぼ無いような状況であった。また、耐震性の問題以外に施設の老朽化があり、水回りやボイラーの設備更新に多額の費用を要する。それらを総合的に判断した結果、本庁舎と分庁舎は集約の対象としたものである。

・岩沼市等の例を挙げているが、比較的施設が新しいこと、地盤などが安定していることなど、耐震補強を選択した条件があると思う。耐震補強をやった自治体、やらなかった自治体の理由ははっきりしているはずであり、事務局で調べておくこと。

質疑

・駅南側の拠点施設の整備が駅の北側にどのような影響を持つかが最大の関心事項である。そこが欠けたら、市全体の復興が疎かになる。交流・連携が大切である。

連絡通路の整備は、予算措置が確定していないということであった。4 mの連絡通路でも狭いと感じているが、それすら整備できないのであれば、施設の集約整備自体の是非が問われる。

回答

・前回委員会でも事務局に提言したが、この事業を実施する上で連絡通路の整備は欠かせない条件であり、相当の経費がかかるのは覚悟して事業検討にあたって欲しい。

質疑

・パチンコ店と近接することは環境面で問題だという声が多いがどうか。「パチンコ店等の移転を図り、道路に囲まれた一つの区画を拠点地区として根本的に考えてみる。」という提案に対して、移転補償が高く本事業として断念したことは理解できるが、それ以降の「有効な土地利用やアクセス性の向上を検討する。」という表記は、回答の方向性が違うのではないか。

回答

・パチンコ店部分の用地が確保できないことから、アクセス性の問題を各所から指摘を受けている。右折レーンの新設や出会い橋の下の道路からのアクセスなど、その他具体的な検討を行っているということである。

パチンコ店と近接することについては、それぞれの感覚で異なると思われる。一事業者として、周辺環境の整備も含めて協力体制を築くことも必要である。

質疑

・パチンコ店とは共存していく。影響は特にないということか。

回答

・拠点施設は、パチンコ店の周辺に後から整備をすることになる。そこで働いている市民の方もいる。環境上良くないからという理由で、移転を求めることはできない。

質疑

・パチンコ店は、平日の昼は駐車場が空いているが、夜間は満車になっていることもある。今でさえ、そのような状況であるのに、拠点整備による区域内へのアクセスや駐車場の不足等の問題は発生しないか。

回答

・駐車場の利用実態は、現庁舎等の利用状況を調査中である。また、アンケートにおいても交通手段を確認しており、それらも分析したい。整備予定地の交通量調査は実施済みであり、それらを反映している。

パーキングの有料化を例として、管理形態は重要な課題と認識しており、検討の時間をいただきたい。

質疑

・配置イメージ図を見ると、東側道路のカーブがきつい。実施設計の段階で検討が必要。連絡通路については、高さや傾斜などのイメージが湧かない。

用語解説については、資料編の最後のページにしているが、別ページにせず、注釈をつけて、記載されているページで解説してあげた方が読みやすい。

回答

・用語解説については、意見のとおりとしたい。

・配置図のイメージは、復興交付金の取得のために、仮に配置したもので、本来これを払拭して考える必要がある。イメージ図が1人歩きしないように、基本計画の策定業者に連絡通路、パチンコ店との共存の仕方などを含めた計画図面の提案を受け、検討を始めたい。

質疑

・過去には大きな洪水被害を受けている。今回建設にあたり、津波被害ばかりを想定しているが、津波以外の水害も想定すべきである。例えば、1階を駐車場にするとかの対策が必要ではないか。北海道や広島など、各地で大きな水害が発生している。

回答

・アイオン台風では、末広町のまちは1階がすっかり浸水した。現在の想定では、ハザードマップで示しているが、拠点施設の用地で2～5mの浸水を想定している。1階を吹き抜けにしたり、底地の嵩上げをしたり、様々な対応策が想定されることから、今後検討したい。なお、防災システム機器等は上層階に配置したいと考えている。（事務局）

質疑

・消防署は、緊急車両の出動や職員の訓練などがあるため、防災教育の場としては通年の利用は難しいということであったが、訓練は毎日やっている訳ではない。体験の場として、消防署付近の防災会館を解体して、そのような体験を出来る場を建設しても良いのでは。

回答

・本事業は、国の復興交付金を活用し、津波復興拠点施設として整備するものである。補助金の趣旨から、防災拠点としての整備は欠かせない要素である。

質疑

・市庁舎が「主」で、その他の保健センター、防災拠点施設、地域活力創出拠点施設が「従」というイメージが拭えない。市庁舎整備が前面に出るのは良くない。その他の施設をイメージし易い形で説明してほしい。

復興交付金・合併特例債の制度資金があるために事業を進めるといったやり方はおかしい。事業の必要性があるから整備するもので、それに制度資金を活用するといった視点を明確に伝えるべきである。

回答

・庁舎整備が前面に出ていると感じられるのは、説明の仕方にも問題があったかもしれない。ご提案の件を肝に銘じ、その他の機能を分かりやすく説明していきたい。特に、地域活力創出拠点施設については、中央公民館・中央公民館分館と老朽化が進み、市民のニーズと合致していないことから、それらの検討に力を注ぎたい。

質疑

・跡地もいっしょに検討して欲しい。交通渋滞も想定される。逆に宮古駅に集中しないような仕掛けが必要ではないか。例えば、印鑑証明などの簡単な受付をする施設、公民館的機能を持った施設を跡地に整備しても良い。

回答

・10数年前は宮古駅から商店街を抜ける通りは一定の交通量が保たれていた。跡地にも拠点性を持たせることが必要だと思っている。宮古駅南側から駅北側、商店街、現庁舎跡地、さらに出崎や浄土ヶ浜のエリアも含めて、周遊性を持たせる仕掛け作りが必要と認識している。

質疑

・市庁舎の整備は時期尚早ではないか。商工会議所でも住まいの再生を支援しているが、仮設に住んでいる人達にプラスの影響はあるか。グループ補助は本格的な救済措置に至っていない。今はそのような時期ではない。震度6強で崩壊することだが、震度6で崩壊するなら、それより小さい地震で壁がひび割れたり、天井が落ちたりするものでないのか。市庁舎は杭が入っており、安定している。地震にはかなり強いはず。

回答

・耐震診断の結果を建築を専門とする者が見た場合、非常に危険な数字である。会議する場所としても、不安なレベルである。そのような意見を持った人が多くいるのは事実であり、それを分かりやすく説明が必要である。

質疑

・パチンコ店が文教施設やその他の公共施設の近接に整備することは法律上の規制があるのではないかと。逆も真なりで、市役所が後から行くから良いといった訳ではないのでは。

回答

・市役所がパチンコ店に近接することは、法律上の規制は無い。むしろ、そういう環境にならないよう配慮したいといった市の明確なビジョンがあるのであれば、ガイドラインや条例なりで市独自に決まりを作る必要がある。

質疑

・市民が交流できる施設の検討整備は、待ったなしの状態ではないか。施設をどのような形で具体的に整備していくのか見えてこない。

回答

・説明不足、資料不足な点があった。誤解を招かないような資料を作成し、ご指摘のあった部分については、基本計画の委託業者も決定したことから、委員の皆様、市民の皆様に理解を深めていただくよう努めていきたい。

質疑

・本事業で一番期待したのは、基本理念にもある「市街地の活性化を図る施設」である。ただし、商店街の皆さんの意見を聞くと、拠点が出来ても商店街がすたれるようでは意味がないと感じた。市としてもこれを契機に、中心市街地をこのような場に検討するといったスタンスを示してほしい。

回答

・施設の整理・集約・再整備については、アンケートを含め、広く市民の意見を聞き入れ、まちづくりとして全体的に検討していかないと人が流れないまちになる。概要版でも、ゾーンとしてどういう人の流れを想定するか検討するか触れていない。中心市街地全体として、大きなスケールで新拠点を考え、資料に入れ込む必要がある。

質疑

・移転する場所だけでなく、駅やキャトルといった既存施設を含めて、全体的な議論が必要ではないか。空き店舗の活用など活性化のあり方については様々な手段があると思う。また、検討内容もハード的なことが多かったが、どのように活用するか、運営するかといったソフト面の課題も議論したい。

細かいことをいえば、多目的ホールの整備については、音楽をする人間にとっては適度に音が反響した方が良く、講演会などの用途では反響しない作りが良いと思う。そのような細かい点を含めて、市民がイメージしやすいような形で議論を進めて欲しい。

回答

・ソフトの視点で考えないと、ハードが決まってからソフト面の議論に後戻りできない。運営の仕方は、出来る前に市民検討委員会で議論をしていきたい。

先進事例として長岡市役所の例がある。市民サポーターを募り、意見をもらう仕組みを作った。ソフト・ハードいっしょに考えていきたい。施設建設検討委員会ではない。商店街などの周辺のエリアも含めて議論したい。

質疑

・基本理念、基本方針をみると、市民活動の場を計画するとあるが、公民館を集約しないのであれば、そのような使い方はできないのか。

回答

・本事業の集約の対象として、公民館は含めないということであり、同様の機能は有する施設として計画している。紫波オガールプラザのような子供を預ける機能等も想定される。

質疑

- ・各説明会や市議会などの説明状況の内容を、本委員会の委員にも情報提供してほしい。

回答

- ・了解した。また、市民向けには本会議の会議録をホームページ上で情報公開している。

質疑

・市庁舎の移転が時期尚早という面もありながら、一方で時期を逸すると数十億の整備を市の予算だけで捻出しなければならないといった問題もある。検討自体は急いでもらう必要がある。

２０１１年から沿岸市町村長に駅を中心としたまちづくりをお願いしている。県立宮古病院の移転時には、三鉄の利用者が大幅に減っている。恐らく、商店街も同じような状況があったと推測する。公共交通の結節点である駅を中心に周遊性を高める施設計画を進めて欲しい。連絡通路の整備は、その一つの例である。

山田線は三鉄移管を有力な選択肢として検討している。三鉄に移管した場合、施設の集約は宮古駅で行い、拠点施設の東側の用地が候補地となる。その施設の影響も含めて、検討した方が良い。

北原委員長

今回は、市民アンケート調査の結果を資料提供すること。また、基本構想（案）については、これまでの意見や検討状況を踏まえて、たたき台となる修正案を提示してもらい、議論したい。

事務局

次回第３回は、１０月１７日１５時、本庁６階ホールを予定する。以上、閉会。